

- 国際ファッション専門職大学: ファッションクリエイション学科
- 2023年卒業生: 浜名悠
- 留学先: イギリス
- 大学名: Central Saint Martins
- コース名: MA Fashion Womenswear (修士号/大学院)

第3回目校費留学レポート目次

- Fashion Now プロジェクトの結果
- 新たな2つのプロジェクト
- 私生活について

Fashion Now Project





2024年明けましておめでとうございます。

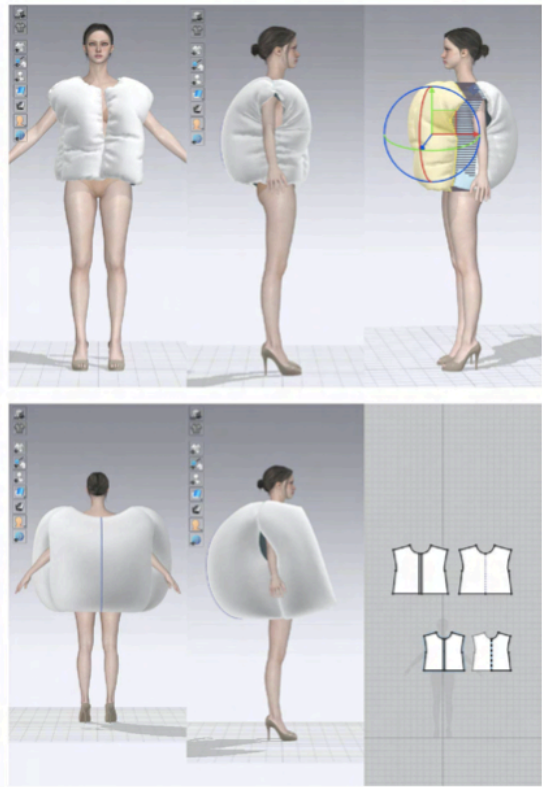
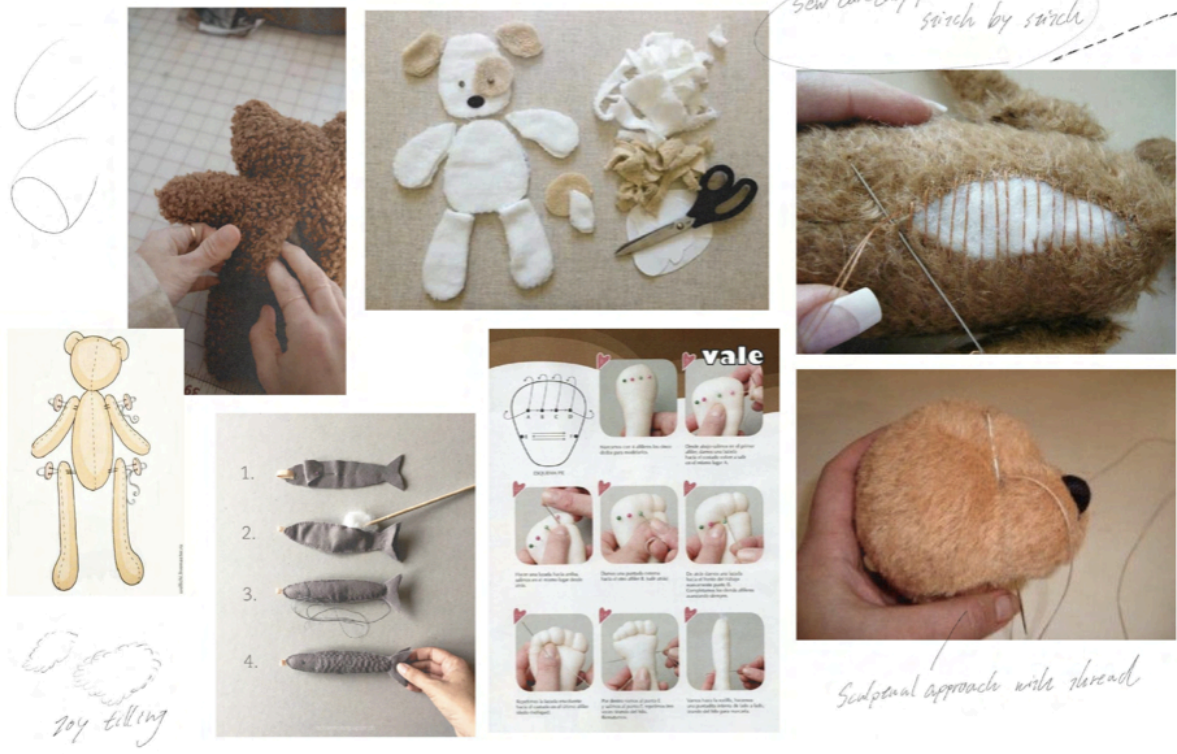
今月は、入学してから間もなく始まったFashion Nowプロジェクトが終了しました。ハンドメイドという制限の中、1LookとコレクションのストーリーテリングのためのデジタルZineを完成させました。

先月までの自身のドローイングやロンドンでの記録を見返して、今一度私自身がどのような目線で世の中を見ているか、自身のファッションに関するアイデンティティを幼少期の写真を見返すなど客観視するところから始めました。そして自身がアウトプットしたテキスタイルやパターンデザイン画をまとめ直し、Lookの制作を開始しました。制作プロセスでは、服の機能性やディテールに関わる問題やロンドンで得たインスピレーションとのコネクション、サステナブルアプローチの導入など様々な課題にぶつかりました。それらをコレクションとしてまとめる過程にとても時間をかけました。

このプロジェクトは最終的な作品の魅せ方（撮影）、プロダクト名、Clo3DやZine制作のためのデジタルスキル、ロゴやグラフィックなど服作りだけではないファッションに関わる全ての背景に自身のアプローチを一貫性をもって持ち込む必要がありました。撮影では、スタジオアシスタントの方と協力して校舎に設備されているフォトスタジオで照明やセットを工夫しながら自身の作品の伝えたいものを最大限に魅せるよう心掛けました。モデルの友人にも作品を着てもらおうよう協力してもらいました。周りの人たちからはモデルとの調和、アティチュードや雰囲気、プロダクトのクオリティについても評価していただきました。講評は、先月で最後だったのでフィードバックはない状況ですがReflective Sheetというものを提出し、自身の課題や改善点などを最後に提出するかたちでこのプロジェクトを終えました。

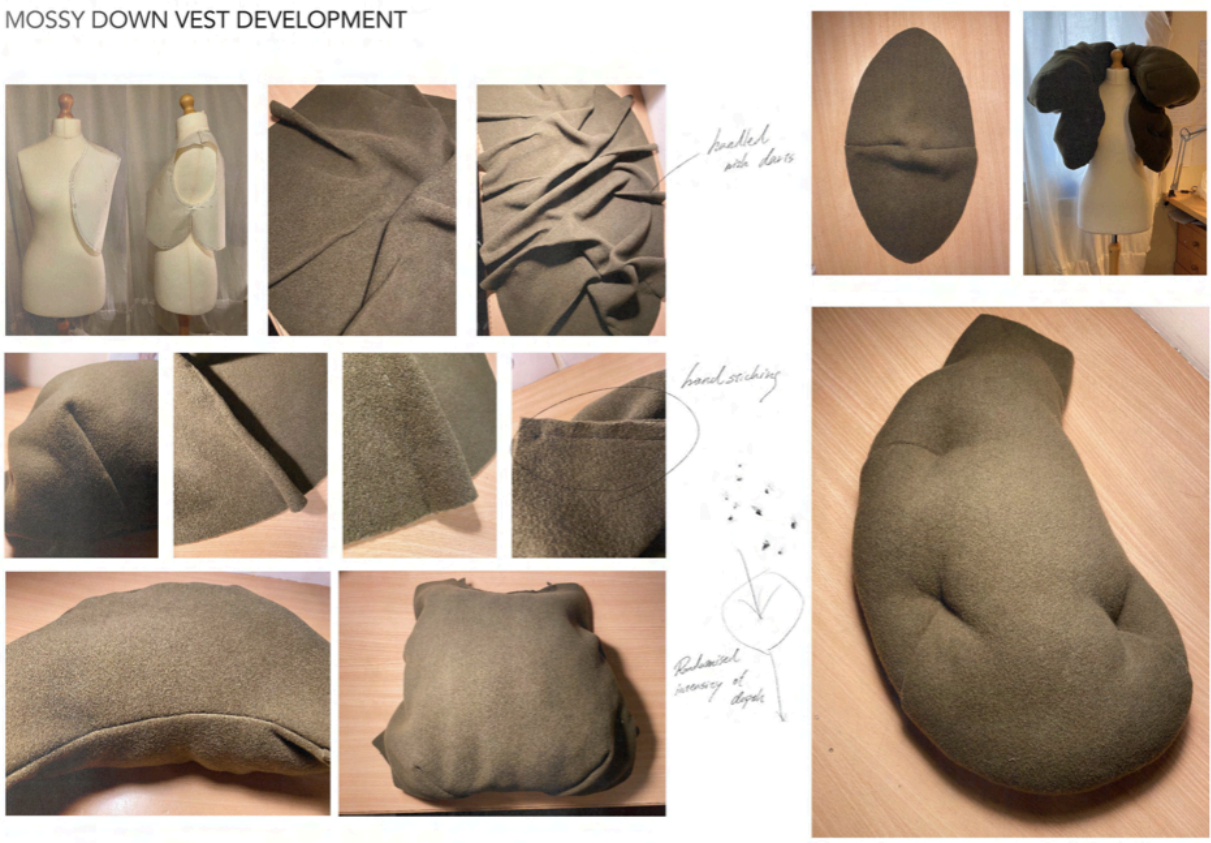
このプロジェクトが始まった当初からは想像できませんでしたが、世界のファッションの歴史において自身が何をできるか、再文脈化させたいものは何なのか、何度も見つめ直しました。とても大変な道のりでしたが先月のチューターの講評やアドバイスをくれた方々の意見を参考にし、現在の自身の想いをかたちにできたことに大きな成長を感じ、自信にも繋がりました。

CONSTRUCTION DETAILS / FINISHING FOR ALL TYPE OF PRODUCTS





MOSSY DOWN VEST DEVELOPMENT





フォトスタジオでの撮影風景

Fashion Nowプロジェクトが終わると、新たなプロジェクトが2つ始まりました。一つは、Canada Goose とのコラボレーションプロジェクト、もう一つはファッションイベントを企画するBring a Party to Partyというプロジェクトです。

Canada Goose x Central Saint Martins

UNIT 1 CLIENT BRIEF



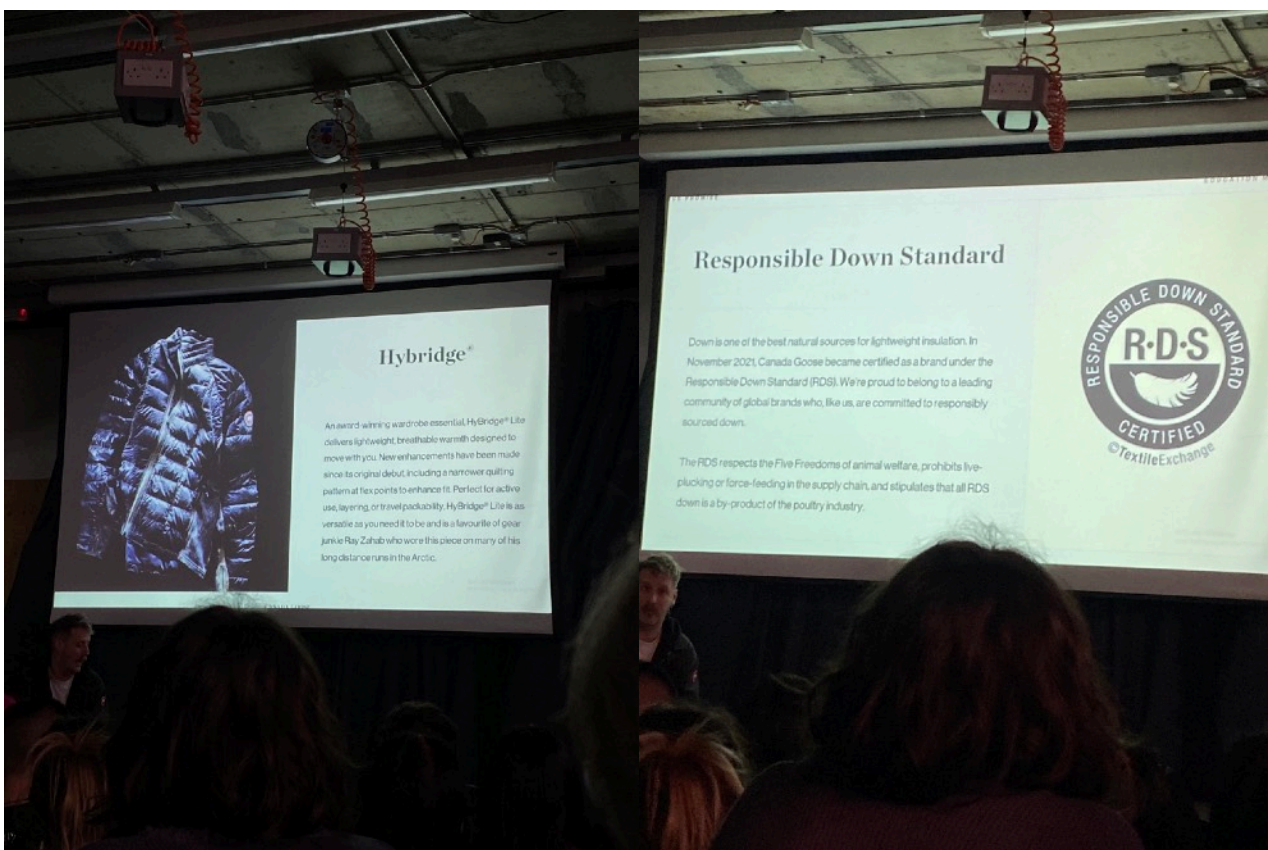
MA Material Futures
MA Fashion

Canada Goose Project client brief

Canada Goose は1957年に創業したダウンジャケットが象徴的なカナダ発の高級アパレルメーカーです。MAのファッションマテリアルとMA ファッションの学生でのグループワークプロジェクトで、次世代のプロダクトを提案します。二年生の先輩に聞いたところ、去年は無かったプロジェクトのようで大変機会に恵まれたプロジェクトだと思います。Canada Gooseの歴史や南極の環境で耐えられる服の機能性や、ディテールなどを学ぶワークショップから店舗にてプロダクト見学などを行い、ブランドの課題点と私たちのグループが提案できるアプローチを探りました。



Canada Goose flagship store 店舗見学



Canada Goose Project ワークショップ

このプロジェクトではブランドが掲げている”HUMANATURE” という目標に基づき、今世紀のグローバルな課題の予測、循環的、論理的で持続可能な素材やプロセスの探究、デザインが求められています。私たちのグループは、保温性について着目し、高機能のアウトウェア(ダウンジャケット)以外のニットウェア、スウェットなどにフォーカスしMA Materialのグループメンバーによるガーリックを用いたテキスタイル開発から始まりました。ガーリックならではの保温性の研究、テキスタイルの機能性についてサンプル作成など現在実験中の段階です。

GARLIC
ALLIUM SATIVUM L.

A COMMON SPICE WITH MANY HEALTH BENEFITS, MAINLY DUE TO ITS DIVERSE BIOACTIVE COMPOUNDS, SUCH AS ORGANIC SULFIDES, SAPONINS, PHENOLIC COMPOUNDS, AND POLYSACCHARIDES.

WHAT ARE WE WORKIN ON RIGHT NOW

DEVELOP SSPCM SYSTEM IN TEXTILE

1. EXTRACT THE ACTIVATE GARLIC PEEL BY CARBONIZATION
2. EXPERIMENT WITH GARLIC / CARBONIZED TO MAKE BIO TEXTILE
3. MAKING CELLULOSE FROM GARLIC WASTE
4. ALTERNATIVE MEDIUM TO ACTIVATE GARLIC

CLOVE
INNER PEEL
OUTER PEEL
STALK

Clove
Inner peels
Outer peels
Stalk
Outer peels extra

Bring a Party to Party

このプロジェクトMA Fashion Communication と MA Fashionによるグループワークとなります。このプロジェクトでは、ファッションイベントの企画が求められています。歴史的にファッション業界を支配してきたファッションプレゼンテーションの規範や基準を再評価してそれに挑戦することで、疑問を投げかける視点を持つことを期待されています。現在はどのようなコミュニティにアプローチするのか、どのような形式、システムで運営するか、グループメンバーと話を進めている段階です。

MA Fashion Graduate Presentation のアシスタント



スタジオでの作業風景

この学校は卒業プレゼンテーションで様々な大手ブランドや業界の方々が着目することで有名ですが、授業時間外は11月から2年生の卒業制作のアシスタントをしていました。2月16日がファッションショーのため今月は最後の追い込み作業となりました。私はパターンカッティング、フィッティングのアシスタントなどをさせていただきました。先輩の作業風景を見ながら一年後の自身を想像するととても良い経験となりました。私自身ブランドのプロダクト制作現場で作業をした経験がなかったため、現場ではどのようなことが求められるかといった点でも知るいい学びの機会となりました。

London Fashion Week 2024



会場となるThe Mandrake Hotel

私生活では、ロンドンに来る前からオンライン英語の授業でお世話になっているUALの先生がいるのですが、その方と何回か会い、私の作品を見せたところ彼が経営しているブランドが2月17日にLondon Fashion Weekでショーを行うということで私のコレクションも参加してくれないかとお話しをいただきました。British Councilがサポートする最初の彼にとって初のコレクションのようで、私生活ではそれに向けて作品制作に取り組んでおります。

今月を振り返って

今月は約4ヶ月に及ぶ大きなプロジェクトが終わり、また新たなプロジェクトが始まりました。日に日に変化を感じるほどとても濃い1ヶ月となりました。様々なチャンスと恵まれた機会を与えていただける周りの方々に対する感謝の想いでいっぱいです。来月も様々な困難の壁にぶつかるとは思いますが、今自分ができることにしっかり向き合い、情熱をもって取り組み続けようと思っております。

以上、1月分の校費留学レポートとさせていただきます。